

赤坂氏の出馬決定

けふ政友派豫選會を開く 民政派は四日から言論戦

愈よ補欠戦開始

右報告に基き候補者として
赤坂龜次郎氏を推薦満場に
諮つた處萬雷の如き拍手を
勢をあげた

縣會補欠戦を控へて民政派
は草野三郎氏を擁立し來る
四日より言論戦を開始する
事に決定、愈よ戦闘は火蓋
を切られるが一方政友派に
ては本日午後一時より聚樂
館に於て部會の豫選會を開
き部會長木村清治氏の挨拶
あつて幹事長井上茂作氏が
赤坂龜次郎氏に交渉の願末
として

最初は例へ無競争となる
に及んでも全々出馬の意
志なしとの事であつたが
鈴木代議士、安島前代議
士と共に交々熱心に懇請
した結果『今回の補欠選
が愚息殺一の死に依るも
のである故を以つてすれ
ば父としての責任上是れ
を觀過し得ず殊に同志各
位の熱烈なる要望に對し
ても此際徒らに尻込みし
て居る事は本意ならず』
とて漸く出馬を承諾した
而して『自分は眼が不自
由であるが幸ひ健康であ
るから當選後は會期卅日
の處は五十日も出席する
氣力を以つて居る』とて
非常な元氣であり自分等
も意を強ふして餘りあつ
たと述べ次に木村部會長が

トマト收穫の 新記録を作る

一反當り千三百貫

青森へ二千貫出荷

石城郡神谷農事試験分場で
は過般栽培中のトマト早生
種スパークスアローリヤより
一反歩當り千三百貫と云ふ
大量收穫を見て新記録を作
つたが一般農家でも例年に
ない豊産なので同試験場の
幹旋により青森縣下に二千
貫の出荷を行ひ好成績をあ
げ今後とも産トマトの大量
出荷を行ふべく各市場を調
査中である

磐中軍大勝

盛岡から飛報

強豪遠野を破る

本日午前八時より盛岡中學
球場に於て強豪遠野中學を
向ふに廻す磐中軍は前年八
對零で敗れた雪辱戦の事と
て選手一同緊張し物凄く打
ち捲つて左の戦績に依り四
A對一のスコアにて大勝
した此報に接した平町のフ
アンは非常な喜びに熱狂し

平署大勝

入山對劍道

平警察署對入山炭礦の劍道
試合は昨日一日午後一時よ
り入山小學校に於いて行は
れたが左記の如く十六對六
をもつて大勝した

平署	入山
高松 2	0 安孫子
鈴木 2	0 浦本
佐藤 0	2 安田
室井 2	1 小野
芳賀 0	1 高橋
大谷 2	1 菅野
高橋 2	1 根本
桑原 2	0 淺岡
菊地 2	0 庄司
込堂 2	0 中村

上遠野の講習

郡上遠野村男女青年團、婦
人會、母の會は聯合して明
二日三日の兩日同村小學校
一夜講習會を開くが講師は
縣社會課教育主事補岩崎周
之助、點田吉之介の兩氏で
あると尙入遠野村でも同様
の講習會を開くと

小谷橋の掛替

平土木監督所では本年度災
害復舊工事として行はれる
入遠野村地内小谷橋の掛合
工事の入札を本一日午前十
一時より執行した

平局が辛勝す

便局對磐城青年學校の野球
試合は昨日午後一時より磐
中グラウンドに於て行れたが
延長戦の結果一對零のスコ
アにて郵便局辛勝した

平町人事

△古鍛冶一八 齊藤茂次氏
長女令子
△古鍛冶一八 齊藤令子
(一ツ)
△久保町一六 當時東京市
澁谷區浦ヶ谷笹塚町 星
山文左衛門(三六)

暑中御伺

福島縣 石城支會
町村長會

福島縣 小學校長會
石城郡

平藝妓屋組合

平旅館組合

三井吳服店
電話(三八四番)

平町長 青沼鋒太郎

もむ讀を字文 流風たま

貴下の御名刺と
御書狀に御使用
願ひ上げます。

……(本見)……

木下藤吉郎

尾張國愛知郡中村
電話掛無線壹番

暑中御見舞申上候

常磐毎日印刷株式會社

平町長 橋町
電話六三〇番

美味で！
評判の……
イワキ
サロン
電 352

平町に初めての
采朝活字：到着

此の活字のうまみは、典雅にして高尙！優佳にして自由！
實に裕かな字相であります。

織田家支配人

夏朗らかに 希望の漲る 各農村

青田に見る自力更生の姿

農作物は伸びる伸びる、日光と地の暖かさで湿りとに恵まれ、スク／＼と伸びて行く。
水不足の 苦勞も忘れて、石城の農村は豊作の豫想に躍つて居る、今出盛り近づく顔を出す梨の出来も結構との事、
野菜類も 概して好成績、農村の景氣は作物の出来に依つてステップを踏む

生産者の一部には三年越しの背負ひ切れぬ負債に脅かされて「金がとれれば、とれたてみんな借金の中に消えて行くんだから一そとれない方が氣苦勞なした」といふみじめな聲も聞かぬではないが、ともかく
繭價高の 折柄青々と穂を揃へた田を見ても重くみのつた菜園を眺めても、希望に満ちた農村更生の姿そのものである事が肯ける

ラヂオ体操の會

けさ第一校庭に

有志等の顔も見えて

擴聲機叫ぶ

爽やかな夏の朝をラヂオは叫ぶ——平町のラヂオ体操の會はけさから平第一及び第三の兩校庭に催された、先づ平第一校庭では

立關係ら 應接室の窓に備付けられた擴聲機に相對し児童等がビチ／＼した元氣な姿で整列、其の後方には有志の参加者百餘名、阿部政右衛門氏、原齒科醫大嶺辯護士、女青團長の會我夫人、常盤屋時計店主等の顔も見えて、立關係に立つた青沼町長が温顔に笑を浮

べて「健康増進にはラヂオ体操が
最も適切 な運動方法です」と此の奨励に就いて述べられる、次ぎに國旗掲揚式に移り會我校長の引く綱に依つてスル／＼と昇る國旗を凝視する
一同の心 には云ひ知れぬ感激が溢く愈よ、六時、ラヂオの擴聲機は叫び出した、東郷文部次官の挨拶があつて運動開始、指導者瓜田訓導の型に合せて一ツ、二ツ、三ツ、四ツと

自動車診療

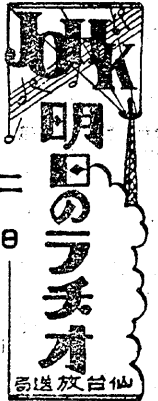
平署駐在自動車政回診療班は今回左記日割を以つて郡下各村を巡廻すると
八月十二日鹿島 十三日箕輪 十四日永戸 十六日川部 十七日貝泊 十八日荷路夫 十九日石住 卅一日川前

青森競馬開始

秋季青森競馬は例年より期日を早め愈々来る八月十三、十四、十五日の三日間青森競馬場に於て開始さるゝ事に成つたが例年拾萬圓の投票券賣上成績を示して北日本地方競馬界の王者を誇る同競馬は非常なる人氣を博して今や其の開催を待望されてゐる、平地方よりの來場を歓迎するとの事

遊戯開始研究

既報本日より三日間平第二小學校講堂で行れる城下各小學校女教員の遊戯講習會は本日前九時より東京子供遊戯研究會今泉薫氏指導の下に開始されたが出席者三百餘名



明日のラヂオ
今夜も明日も南西の風曇一時晴驟雨
氣味

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 唱歌 青森縣女子師範學校附屬小學校児童
- 後七、三〇 運動講座「都市對抗野球出場チームの横顔」橋戸頑鐵
- 後八、〇〇 俚語「相馬流」
- 後八、二〇 俚語「秋田おばこ」田口さだ夫大勢
- 後八、三〇 俚語
- 後八、四五 連續ラヂオドラマ「人形の家」友田恭助 外大勢
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

苦しい家の娘に毒牙を磨く

悪周旋屋を愈一掃

近來平警察署には無免許や悪辣な周旋屋の營利誘拐が可成りに多い、是れ等は農村や
炭礦地を巡り苦境にある家庭へと入り込み赤い灯青い灯のゆらぐ話をして誘し出し或ひは親から依頼されたのを種に飲食店やカーネーに賣飛ばし、又は是れ等稼業の辛さに逃げ出も「待つてました」とばかり轉々と一人の女を
各所に 躍らせ遂には女を泥沼から浮び上ることの出来ぬまでにしてどこまでも私腹を肥やしてゐる等々の悪辣ぶりは凄じいものがある、酌婦の逃亡も陰には悪周旋屋の手がひそむことが多く横山平署長も餘りに眼に餘る
行爲に 捨て置かれず

縄跳講習

けさ平第一に

既報石城郡下各小學校教員の縄跳講習會は本日午後九時より平第一小學校講堂に於て文部省体育課明大講師出口林次郎氏指導の下に開催されたが出席者は百餘名頗る盛會であつた

五十圓を紛失

石城郡高久村下大越佐々木政藏三男英兒(七)は去る卅日午後三時頃平町で茶種を五十圓にて賣却し自轉車で帰宅の途中南町地内で紛失平署に届出た

平商の三五會

平商業學校第十一回卒業生より成る三五會にては去月中旬

明日の部

- 前六、三〇 夏期佛語講座 五井上源次郎
- 前七、二〇 夏期英語講座 (五) チャールズスパーカー
- 前九、一〇 料理献立
- 前九、三〇 家庭講座 孟蘭盆會の活花 小島專甫
- 後〇、〇五 滿洲より
- 後二、〇〇 夏期講習 家庭講座 長唄のお稽古 (二) 杵家彌七
- 後六、〇〇 子供の時間 齊唱 JOAK 唱歌隊 ビアノ伴奏團生健夫 指揮吉原規
- 後六、二五 講演
- 後七、三〇 講演「加藤清正と土木事業」角田政治
- 後八、〇〇 義太夫掛合「新版歌祭文野崎村の段」竹本勇藏 竹本吉花外
- 後八、三〇 哥譚
- 後八、四五 連續ラヂオドラマ「人形の家」三 友田 恭助 田村秋子 外大勢

裁判所だより

- △警崎村々會議員吉田直文氏は罰金八十圓、同事務所長御代徳治氏は罰金百圓に各選舉違反として過般平區裁判所に於て判決言渡されたが最終期日の今日控訴の申立をなした
- 平職案紹介所報告
- 回入を求める方
- △綿工見習 十六才 尋卒
- 給料面談(平町某)
- △漁業雜夫 二十五迄 月七八圓外面談(四倉町某)
- △農夫 三十迄 委細面談(飯野村某)
- △留守番 三十五以上 尋卒 月五六圓(双葉郡某)
- 回職を求める方
- △農夫 二十八才 中二修

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第四回 血に飢ゆる村正

親切な百姓衆
聽て涙を拂つて正宗が
正「然らば明日とは云はず
今夜の内に立出を致す方が
却て人目に掛らぬで宜しか
らう」

村「然らば左様致しませ
う」

と、そこで村正は早々に
支度を致して

村「夫ではお師匠様、何卒
御身御大切に」

正「其方も道中水當りなど
のなきやう、所持の薬を絶
やしてはならん、急ぐ旅で
はないのだから、成べく宿
は遅く立ち早目に泊りを求
めるやう」

村「種々お心注げ有難う存
じます、どうぞ皆様に宜
しくお傳へを願ひます」

正「呉々も短氣を起しては
なりませんぞ」

と門口まで送り出す師匠
の情、勘當とは申しながら
憎くつてするのではない、
マア可愛い子には旅をさせ
ろといふやうな正宗の心得
さて村正は住馴れました鎌
倉源氏山の家を跡にして、
當もない旅に出でましたが
先づ道中仙道に取りまし
て、名所古蹟を尋ね、神社
佛閣を参拜して、己の荒

た心の直るやうにと祈願を
する。ある日の事、御嶽の
山中へ掛つて来ると、岩山
の事で道中馴れぬ村正には
誠に難儀、ふと石に躓いた

村「お師匠様がお別れの時
に旅へ出たら薬を絶やすな
と御注意下さつたのを、忘
れた譯ではないがツイ迂つ
かりしてゐた爲めに絶やし
て了つた、そのために今此
處に差迫つて難儀をする、
之もお師匠様のお罰だ以來
は之に懲りて薬を絶やすま
い、あゝ痛い」

と云ふ様子をしてみせる
○「待ちなせよ、丁度幸
ひ熊膽を持つてゐたからサ
ア、苦えが我慢して飲み
なせよ」

親切に熊膽を口に入れて
呉れ、幸ひ一人が瓢へ水を
入れて持つてゐたので、夫
を飲まして呉れた
○「茂十どん、お前茫然し
てゐねえで病人の背中を撫
えてやんなせよ」

茂「鋤をどうすべえ」
○「馬鹿ア云はねえもんだ
手に鋤がくつついてゐる譯
でもなかんべえ、脇へ置い
たら宜いさ」

背中を撫で胸を摩りして
呉れたので、暫らくすると
大きに樂になつた
村「どうも有難う存じます
お蔭様で助かりました」
○「マア宜い鹽梅だつた、
顔色も大分宜くなつたから
モウ大丈夫だらう、お前様
は何處へ行きなされる」



拍子にどうした譯か急に下
腹が差ふんで来て、その苦
痛一方でない、懷中を探つ
て見ると相憎薬を絶やして

どうしなすつた急病でも起
つたかヤレ、氣の毒な
村正は餘りの苦痛に口を
利く事も出来ない、漸く片
手で拜んで、泣けて呉れる

○「ア、さうかい何しろ此
の御嶽と来ると、旅馴れた
者でも難儀をする處だ」
村「左様でございますか、
之から上方の方へ抜けます
には大分ございませうか」

○「あるとも、まだまだ
可成りある、夫にモウ日の
暮、どんなに足の達者な者
でも途中で夜になるは知れ
た事、平地と違つて斯うい
ふ山中で夜道は危ねえ、足
を踏み外したら最後冥土の
入口へ一足飛びだ、さうで

なくとも此の山中には種々
な獸がゐるから迂濶に出来
たものぢやアねえだ」
村正は驚いた、種々な事
を云つて脅かす奴だ
村「夫はマア飛んだ事にな
りました、どう致したら宜
しうございませう」
○「マア心配しなさんなよ
私の家へ來なせえ、泊めて
やるから」

茂「さうだ、旅の人悪
い事は云はねえ、此の爺さ
んは村でも評判の親切者だ
一晚厄介になつて、明日の
朝早く立ちなされる方が宜
いよ」
村「有難う存じます、さう
願へますれば此の上の喜び
はございませぬ」

御愛乗下さい
シボレーに！
そは先驅者なり

○「ぢやアソロ、出掛け
るべえ、餘り遅くなると婆
様が心配するだから」
△「さうだ、俺の家の阿
嬬も心配するだ、茂作よ、
お前は宜いな誰も心配する
者がねえだかな」
茂「馬鹿アこかねえもん
だ」
△「誰が心配する？」
茂「隣のおさく坊が心配す
るだ」
△「馬鹿野郎、内所事を喋
つて終やがつた、アツハツ
ハ……」

村正も思はず苦笑をした
夫から三人の百姓に連れら
れて、間の村……」

貸切の●●●
御用命は!!!
獅子吼(四四九)ノ勢デ
マツサキ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

吸入用酸素純度99%
度量衡
モノサシ
マ ス
ハカリ
器量計
体温器
寒暖計

關内藥局
電話四〇番

外科 X 光線科
性病科
外科科
安齊外科醫院
電話四七五番

吉田眼科病院
平針屋町、電話六八番